

新型肺炎「差別より連携を」 正しい知識と、思いやりの気持ちを

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、政府の専門家会議は2月16日、不要不急の集まりを控えるよう呼びかけました。東京マラソンの一般参加の中止、天皇誕生日の一般参賀も中止が決定し、今後、東京オリンピックにも影響があるのではとされています。

予防と偏見

中国人観光客に対する入店拒否や、新型肺炎の感染者が出た自治体に対して「感染者の名前や住所を教えて欲しい」とか、「近所に中国人が住んでいるがどうしたらよいか」という問合せが急増したとの報道がありました。

予防のために感染者には近づきたくないという心理は分かりますが、差別や偏見につながる行動は、予防行為ではありません。

平成23年の東日本大震災の際に、原発事故により避難した方が、避難先であらぬ偏見や差別を受けることがありました。正しい知識を持たず、必要以上に不安をおおった結果が、差別や偏見につながったことを私たちは忘れてはいけません。

私たちができること

世界保健機構(WHO)事務局長は、「感染者や感染者がいる国に汚名を着せるといった差別や憎しみではなく、今こそ連携が必要だ」と訴えました。

感染者やその家族、中国人などが差別的に取り扱われる社会情勢では、体調に異変を感じた人がためらうことなく医療機関へ受診することができません。

「差別より連携を」。正しい知識と対応、そして相手を思いやる気持ちを持つことが、できることではないでしょうか。